

## たろっぺに多数入賞

本年度も、能代山本年刊詩集「たろっぺ」に多数の入賞を果たしました。学校では言語活動が重視され、言葉や文章で思いや考えを表したり、伝え合ったりする活動を多く取り入れています。その成果として感受性や表現力がアップし、今回の多くの入賞につながったのであれば、たいへんうれしく思います。

以下、入賞者と第1席（学年の最優秀作品）に輝いた近藤永彩さんの誌を紹介いたします。

### 【中3】

- ☆一席入選 近藤永彩「折り紙」
- ◎入選 畠 杏奈「サーブ」
- 佳作 櫻田愛花「宝物」

### 【中2】

- ◎入選 渡部夏子「書道」
- ◎入選 斉藤駿太「卓球一筋」
- 佳作 鈴木悠馬「家」

### 【中1】

- 佳作 小笠原玲「前日の決戦」
- 佳作 河田琉南「交代」
- 佳作 渡邊れいな「英検三級一次試験」

題名「折り紙」 近藤永彩  
「のあちゃん、どうやるの。」  
右隣から私に向けられる声。  
手元には一枚の紙。  
朝から開催されている折り紙教室。  
講師は私ただ一人。  
生徒は二人のおばあちゃん。  
「ここをこうやって折ってみて。」

真剣な顔で折っていく。

「なんか違うなあ。のあちゃん教えてくれ。」

もう一度教える。

同級生に教えるよりよりもゆっくりと。

幼少期を思い出すかのように

スロー再生で折っていく。

巻き戻すようにもう一度。

次こそつたわったかな。

「そういうことか。なるほどな。」

お、伝わった。

「のあちゃん、助けてくれ。」

今度は左隣からのSOS。

また折り方をスロー再生。

「おおできた。」

やっと完成できたみたい。

「すごい。きれいに折れてるね。」

二人の生徒をほめて先生は休憩。

「のあちゃん次これ教えてくれ。」

もう少し休みたかった。

「まずは半分に折って…。」

新しい紙を机に一枚。

ゆっくり、丁寧に、

スロー再生のように折っていく。

<校長の個人的つぶやき>

ゆったりとした温かな時間の流れ、このままずっと続いてほしい空気感が伝わってきます。スロー再生のように折っているのは果たして折り紙だけでしょうか。深読みしたいですね。

幼少期を思い出すように、巻き戻すように折っているのは、私、それとも…想像は広がります。

一席にふさわしいすばらしい作品。おめでとうございます。

## 秋田県児童生徒美術展に展示されます

応募した作品は各郡市審査会で審査され、入賞作品が各郡市から県に送られます。入賞者及び県展は次のとおりです。

【入賞者（敬称略）】 渡邊れいな、河田琉南、雄鹿いつき、佐藤咲優香、上田真維  
近藤里緒、鈴木優正、新井田姫

【県展】 会場：秋田市文化創造館

日時：1月5日～9日

10時～17時（初日は14時開場、最終日は14時閉場）